ＩＣＴの活用による肉用牛生産力の強化

組織の概要

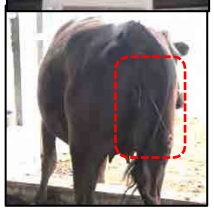
・所在地：宮崎県綾町
・組織名：JAみやざき綾町地区本部
（綾町肉用牛総合支援センター）
・経営規模：繁殖雌牛　158頭、哺乳子牛158頭等

導入技術

・発情発見（牛歩Ｌｉｔｅ）　９セット
・分娩予測（牛温恵）　８セット
・監視用WEBカメラ　８台

綾町における繁殖雌牛飼養戸数・飼養頭数の推移

綾町肉用牛総合支援センター



牛温恵

牛歩Lite

夜間監視カメラ
（預託農家もスマホで確認可能）

導入経緯

○ H26年に町内の母牛頭数が１千頭を下回ったことから、綾町肉用牛総合支援センターを整備し、分娩直後の母牛と子牛、長期不受胎牛の集中管理により、飼養管理の分業化を進めている。

○ H27年度には、先進的な農家にICT機器（牛温恵８セット、監視カメラ８台、牛歩Lite９セット）を導入。農場における生産性向上と労働力の負担軽減に取り組む。

取組の特徴・効果

○ 同センターにおいて、分娩直後の母牛と子牛を受け入れており、母牛は預託期間中に人工授精を実施し、妊娠鑑定を行った上で農家に返還している。結果、施設に預託された牛の分娩間隔の短縮を実現した。
H29 町内平均419日 → 預託牛平均378日（△41日）

○ 同センターにおいて、簡易放牧の実施や発情発見装置を活用しながら、長期不受胎牛の解消に取り組んでおり、農家において347日間不妊であった牛が、施設受け入れ後、85日で受胎する等の効果を上げている
（預託された不妊牛の受胎率：81.9%）。

○ 発情発見装置や分娩予測装置、WEBカメラといったICT機器の導入により、農場における発情予兆の見落としの減少や分娩時の労働力の負担軽減が図られ、町内の子牛生産頭数が増加した。
814頭（H27）→842頭（R2）※出荷頭数ベース